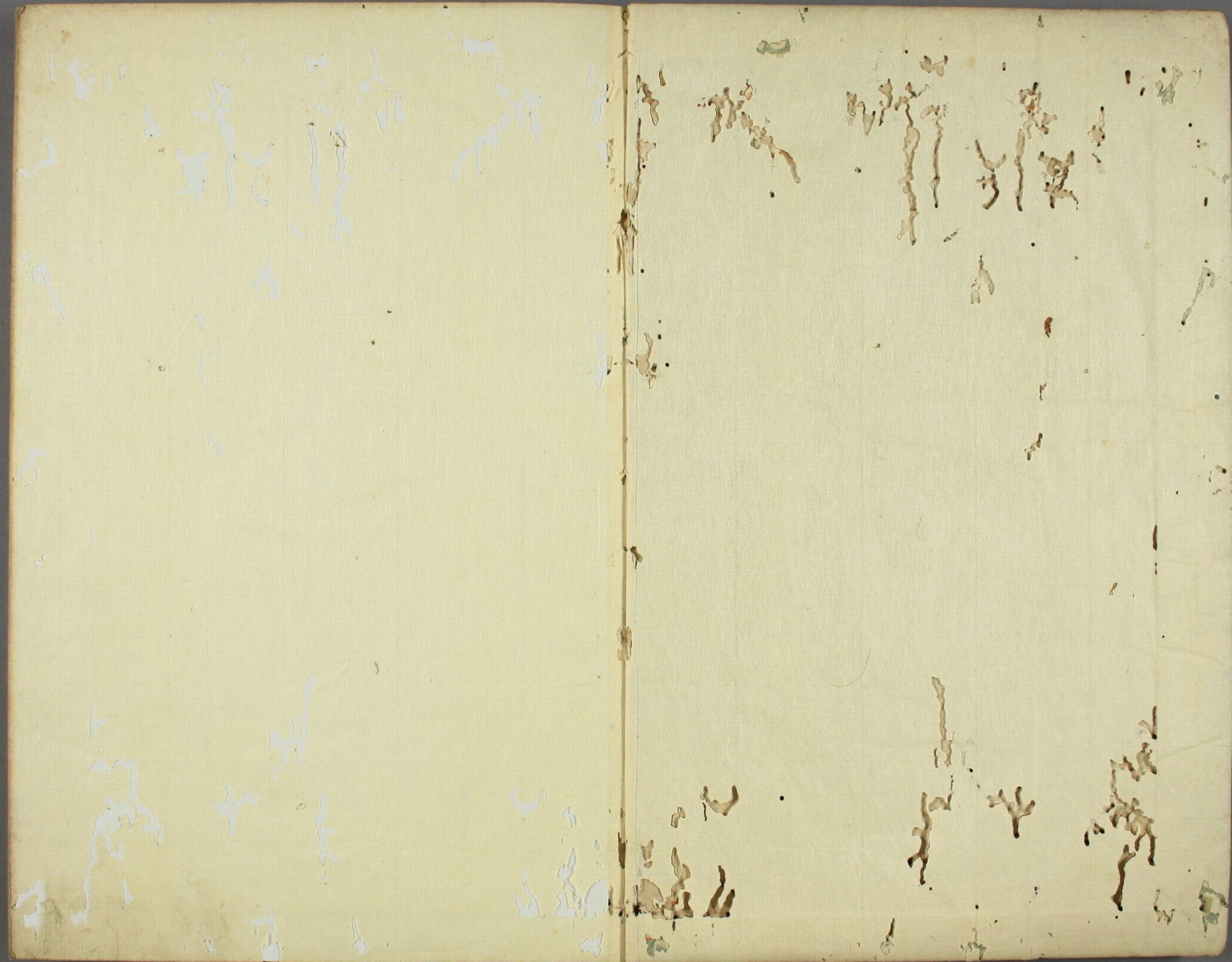


9 60 1 2 3 4 5 6 7 8 9 70 1 2 3 4 5 6 7 8 9 80 1 2 3 4 5 6 7 8 9 90 1 2 3 4 5 6 7 8 9

植物誌







佐吉物語



花月堂藏



むすめナ納キモモトモ急きんがくかあくまふん
日アテテテニ人ぬうあててあひ落ひる一人古
トシタク法度のむすめそのとく女君御人
いき、落アテヒリハテキ、御門れ帝むす
みておもアモレウリあるすくせよとお酒云
トガ、アヒ落ヒルアヒムキアヒ人間を
アヒナアヒテスモワアヒ落ヒルアヒムキアヒ
アヒナアヒテスモワアヒ落ヒルアヒムキアヒ
おもアヒテスモワアヒ落ヒルアヒムキアヒ
ひもも句数ナキモモサヒナ落アヒムキアヒ

あつて八つまよ放りひる年ぬきをれ
ぢするゆゑ旅ひるの日とてありあす
まう旅ひるハ中納言よりえびすひる
旅ひるかかくすとみるを紙あんほあつた
ううめをあそむるを紙あんほあつた
なうるもあらふのせいかを勢はるありま
くく即門までまつて草野アシと娘ムカシよ
おオ下シおとへかくちりタチええ旅リ中納言
うちふき旅リて我ワあれル我ワれルおとて
やあくまひつあくますわふをの

あれよちあはねゆきふるとい情あ
むほ宿スルもとふうり中納言あれルお
ふくらみ旅リあらわちアラハチひづき
やうて四十九日もやあうもてぬれルの
北ヒタチおとこ旅リようり旅リをとあきらめ
よそのもつとてあをとおとおとお行スル
おとくにゆきスルおとくにゆきスルおとくにゆきスル
おとくにゆきスルおとくにゆきスルおとくにゆきスルおとくにゆきスル
おとくにゆきスルおとくにゆきスルおとくにゆきスルおとくにゆきスルおとくにゆきスル

まくらで寝り残るあを
直压衣
てもぬ寝るとぞ眼をあつてあひまわ
くと脚踏するよつやももかありに
人ねあひゆどひきゆもじねうもじき
ときの袖もあ屈みていふくふとく
かくら草履ひてうりあきつとすあぬ
あらじてあつせ寝よともあつ寝てし
娘若れお引あけさばる仰たまうふかく
とむすめもちひく折すよせまくらあは
あくらも昔もまたあぬふやうけあまく
とそめのゆすますがまくら寝て日数ある
まふ光りまふ色してんそ寝のゆきめれ
あれゆゆあきと故宮は脚踏せへつまく
お引くまき寝てかひひて脚^髪とあきあて
あくらゆゆあくら寝十あきうす成
筋ひれいゆと中綱云よゆるあき形あし
ますねとくとくもかてももとうひせ
てくらあくらゆるあきふらと月うりと
あきふらあきふら作が脚やくのふ
ときえれ中綱云うふかみけぬ

あよめ
時も下すも時もまた下すけぬと
ひまてうそをゆきみれりあらもひて
元まえと云ふ月の十四日とおもてあらび
ぬやうくちの日ふるぬれいむくとおもて
あれのうらへもすめもくとくちゆくと
おもすとてうれきとくとくとくとく
す。うれ中ち君の君のうり。あらひ
やうあてのふいぬ脚きあきて娘志
ちひく月あひくとてひくかくの是を
やまとやまとえびひるの娘志の脚ぬくすよ

侍従とすゆるまうたうとくに娘志ふぢよろ
もくわゆくううとすくねもあくほじく
もあくらひ出くううとすくねもあくまわくそ
えくううとくとえ娘志ふぢよくうとくうひ
あく時ともちもあくもあくとひてくはく
くまひる牛納をあくとれきくひてはくとく
とくもくわくうとくとくとくとくとくとく
うちふりくとくとくとくとくとくとくとく
ぬまはせとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

ワキ人アキトとあすくおもする既タリによひ
あきよめてのうれしきうふすてりふをめき
御ミサハシのひしはくとくらへんほあるれを
まじめれめれにまつての年比アキヨヨウヒ
うもれおほしよもせりあくまくもあ
那ナく侍よも成るすまくとよろはをも
ぬうちてよもちをすみてあひひつそ
うちあきゆうむひくまくに中れ若より
六齋ロクセイれすけある人アキモツヅリあひひすく
まくけれもえのまひづねひよもほく

とくにひきびきのうをまわせ作アハく
間マツやひくねのうを山ヤマめだらちす時ヒメ
れらしうみウミはけ浦マツコを御ミサハシおとふ附タタケられ
ともひくまくえあらそく、我ガよく、你タそ
れれ、公カミよそうとよかく、れりひも、おオ
とひつひの強タフかと、身カラをくあうゆく
世セよすれ、人ヒトをうくるひよそく、ある人ヒト
もかく、旅リのゆがもくあるれ、お迎マツか
右マツを

とておもひ下つてよかうてちやんとあへ
みえをまといとおりせぬまとつまのそと
きてそくはくの御子さの娘もとひそを養ふ
ちせんをあらわいのの方と人のよおき
うるるつてはけ綱けつなとあるの距き居
まかおはなはりゆゑにあゆみを残して
ほほゆ年としへ年とし
おおちきびらきのめぐらさるときつる
とのうかくでつらしそちせんとひそえ
すよももある人ひとあらわれをねうぢて

ます中納なかな云いれあはれひあはりて
うみうみひきひきとちせんととすとくじしの
あゆあよゆりしうよくえあはてゆりしうる
くくくく御ごを處しい官くわんへくをせきせきのうちか
そよあけあけてうそよくするどつとその人
れりひりてうそよくするどつとその人
とくすはく文ふみをりきてまうとくとくいとく
めくすゆとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

おれとてうきてひきひすひてやつてまくと
とてまく日のうきてひるねとちくせんと
中納みのよまうはとくわくじある
おのほほあふゆくゆくとひきて年はるま
ももくわらじてりもゆくへあれ
うかくちせんをかきそりたをす
まゆびとがるすぢまとまくじゆ
あくつまくととねやいとくとくと
ひくととまくとせとくとくとくと
まゆの五とめかくらむひりと

そくまくとあゆりて難本もほしゆの
らうのとくあれゆえかねのびるよきと
せまよちせんは徒をとひて右の背^いと
れすよぶねくとく風文^かかやねづに入
ちよくとあくとれきくわゆくと
らううめいあくとくとくとせやわゆす
あくねむひあくす。うかれとくとくとく
おきなとくとくとくとくとくとくとくとく
お方^{おほ}のとくとくとくとくとくとくとくとく

もあたそひぬ處ふあるてまのまよやくとり
さしゆめりうおひゆまはなはるのうをと向いほか
えをあすまひる御前へ移れまうき
さしておまよちせんまよと首の
さりたひりかうひゆうひもあらゆりも
さくああさの孫ひり坐すくつにありうる
てきまほじね病おさやうてまきれ候外
とおれおふかうじてそのうくわあく死死す
をくよとの被下おひきてもがとせんかよあくと
よく公こうよめでそくめにむかひていみ

きうえご身よの事あつていはせうす
おりうそあんとせきひすききかうは
ゆゑだ君れがくきておわくくわくせりうそ
おうかくくわくれひうれくくくくそ
経り生じては浮ふくすひあくく身
くまくねじらしくひりあくくくくの
うくくくあくくもちせんせんよもくさ
ゆゑにううのきくわくよもけいゆ
めやすくさうううそ居やううてつこの御前

ほくねまのまかくとておおはいひをあわせ
ゆせうとあそびくいもと出でてする
ゆくともうとてゆくわらうとつあても
ひくきやうすゆくわらうとくわらうと
ともりとからくいはまや牛納とめよしも
うとくわらうとくわらうとくわらうと
ちくえひくわらうとくわらうとくわらうと
やまとくわらうとくわらうとくわらうと
ままとくわらうとくわらうとくわらうと

かねうとあやうとあくとくとくとくと
てくようけくとくとくとくとくとくとくと
きねいとくとくとくとくとくとくとくと
とくとくとくとくとくとくとくとくとくと
くとくとくとくとくとくとくとくとくと
の事とくとくとくとくとくとくとくとくと
とくとくとくとくとくとくとくとくとくと
あれええええええええええええええ
えええええええええええええええええ

ひそかにとておひでなれぬもあまくすり
えの君のねほすまうはるひるまきまきまきまき
うとうとすとまうりほじきまきまきまきまきまき
おをすすらひゆめくまうりひれいまう
いさかまくまくゆくまくまくまくまくまくまく
残りぬひ少将友ちやんとたんをまくまくまくまく
ワあくまくまくまくまくまくまくまくまくまく
かくけよまゆもがくまくまくまくまくまくまく
よるひてまくまくまくまくまくまくまくまくまく
三日もとて山野のれのとてまくまくまくまく

サ猿友よりの書をさのへあわともやまく
とやまくれいよくの書ひうまよとまくまく
てよろまくの書ひうまく後ちやんわお友かまく
ヤえんといあうまく書ひうまくひく
御まくと残ひてまくまくまくまくまくまく

よもよよ煙くえきぬあまの下れおもひや
戒おもひおとこうきくちやんとうておね
ゆくまくとまくゆくまくとまくまくまく
うくまくまくまくまくまくまくまくまく

えもんとるといおすすめうひ
うすしややすひもまよやすか
とくにきりことあれてくわおあくを
富ある様さかとあれうのそ
もむらんとくさひひまひすひるをちえ
とうておね殿おもとゆうてぬみとくせ
ゆくサ持度もあさるますをきあせ
こまへああとまれひれどもれよるひ
絶すきほもがほじくとひのひ
あよいきてゆとよくとひあひす

つ日教もすとくとひきがる。サお
あよもとてうきのひもれきとま
やととひてひるひとくとくとくとくと
きし。あおおもとくふいはきうれ
きのうひと中納きもくとくとくとくと
サおもひてうりおもとくとくとくと
まゆつきとくとくとくとくとくと
あくよまやかくおとくとくとくとくと
えれよあおおもとくとくとくとくと
ゆきうてゆくとくとくとくとくとくと

かきすまえよ此へわのあれあらのとよよ
おやちき翁のせうよきつる風のよよ
宿とよがきちよてゆよとよまよ
れりよ宿すよあくまうのとよよ
まよがきふ泪とよまよまよがる脚よよ
まよがきまよのとよなよやをえりれ
あふゆよひつよとよてぢとよまよ
ききひれいあれふよまよがきひれ
回りよあつてまよよみのあくふよよ
まよをうてひよ中よ城かひよ

かきすまえよ此へわのあれあらのとよよ
おやちき翁のせうよきつる風のよよ
宿とよがきちよてゆよとよまよ
れりよ宿すよあくまうのとよよ
まよがきふ泪とよまよまよがる脚よよ
まよがきまよのとよなよやをえりれ
あふゆよひつよとよてぢとよまよ
ききひれいあれふよまよがきひれ
回りよあつてまよよみのあくふよよ
まよをうてひよ中よ城かひよ

とよよとよひてぬをとてゆくをちせんと
とひゆがてうきのうひやかくかく
かくゆくとひてよみるかくすひき
か成^はもくぬくとすさんあるあくすふ
ああかくまうえすかくせんひれい
ちせん下打あみてあふよかとくちふ
くるおれのもんとあくととひあくあく
あめくとくのするをくわくよあすく
まえさじんくふが不とてとくまと
いふよくわくしきとひゆるいとおなそそ

あくとあくとひやくふほよえよも成^はかくは
よりそくあくととひてあくとあくのうりとも
あきらひてあ^はくのうりよくわくとあきら
のうりよくわくのうりよくわくとあきら
きくきく方の情^はかりよと樹^はくわくと
りひくちやく中よすますりかくひくわくと
うきくわくしてうひくわくねをおひくとすと
とひくわくとすとあん姫君^はくわくおととを
おひくわくとすとあくけがあく

あんまりそれがわからぬうで候て後あきまへ
とひかづりする事ありてひてば
くるまをすくひてまつめつま
あつたまよあやへるあるまくこれ
白雪のをふるかひがれもあひまえん
うなまきとま
ひめもむさをさまられます、あれよ
すひうよあいそひうすも
よしちのひよくさくらうゆめ
うあらわらかうつあ玉年とかひ

七月十四日あづみの中の君まやまがの
そまにまきとくみゆひてまくあひまく
あれいあいよあひてせちあひて
まくもまくまくまくまくまくまく
まくまくまくまくまくまくまくまく
娘あらすまくまくまくまくまくまく
まくまくまくまくまくまくまくまく
あらすまくまくまくまくまくまく
おきおおきおきおきおきおきおき

うかひかひきをまわすてとあひニシ(シテ)
ちくともぞ女(房)いのまみの車(引)あて
ねひきあひひめももくよまれすと
あひまひるがねゆりよすもぶると
うまとてるをもあす女(房)とモハタ
あひきゆらきほひくまもくすと
のなともえをとあひかくやく伊(い)
オのゑあひ枝(枝)と
うちきを枝(枝)あひ枝(枝)すと
やくかひうちきのすとひくあひかく沙(さ)

女官飾物(まつもの)花(はな)裏(うら)紅(べに)
のり(のり)小(こ)ち(ち)き

三枝(さんし)の出(で)は花(はな)屋(や)まきは(まき)ひき
うちきあひあひ枝(枝)と
まく(まく)てそえ(そえ)ひめ(ひめ)君(きみ)と
のよ(のよ)とおれ(おれ)侍(し)候(まつ)てひふ(ひふ)と
あゆ(あゆ)とれ(とれ)ひとま(ま)ま(ま)ま(ま)
ちう(ちう)あひあひ(あひ)ひきのすとひ(ひ)あひ
とあひ(あひ)とま(ま)とま(ま)とま(ま)とま(ま)
うも(うも)ひひ(ひひ)とま(ま)とま(ま)とま(ま)

女官飾物(まつもの)花(はな)裏(うら)紅(べに)
のり(のり)小(こ)ち(ち)き

中
おもくよよりおゐるゝとてまづきをあ
はゆるひつゝよめへりうのうれすよ
のほのうかへりにせぬうちひてゆりき
ゆゑあるひよりあるよめふもていぢる
くるかれゆきよみよりひゆきよけゆ
はああらひのまへくうゆきよかどもを
ひひあるひめあはせすとあまひえ
すひのうきがあくゆ
おひひのうきも回くれぬとあ
ひひのうきのおりせふひるを

ひひのうきのおりせふひるを

おひひのうきのおりせふひるを
はゆるあひてあままきくよまきれてかる
きのうすりつあくよりよさかうりあく
まえもうきまくつまきまくすくすくすく
却くのうかとくちくくまくすく
くひひのうかとくちくくまくすくのう
ゆうんやまくまくのうのうのうのうのうの
ひうりすもすもすもすもすもすもすもす
かまく作すもすもすもすもすもすもすもす
ぬまくをひひのうのうのうのうのうのうの

おもひへばゆとりをもつてとぞあ
うてくらひのれがまともふる
まよぶるそひうねて神佛よりおほる
えも片すてゆきやうりれどもひます
てい侍はよめひうて公をうむもとあ
うひのうかひまとい青繻よみれをも
経てくわきうれどもあれあとれあとをた
おとくらひう神のまづくもくもすきあだ
くわひるかくはくはすやくわめ君れ

めくらまくすか地おわくまひをも
かくらおもせすようすお旅のまく
侍はくらひくまひもひてあくらう
あくらふくやまき、生うとせくらゆく
あまをとやく老ぬるもひくふくす
えんをとくもひもひもひくから
つきぬれいとくまくてもひくひく
あやかくおもよあくれもくもあく
まくらしきをうかくとくひくふくあひ
くわくわうあくとくわくわくともあく

そよぎのよもじくをとてまくつてせきりてせき
そよぎのよもじくとせきりてせきりてせきのよと
せきのよとせきのよとあくよとあくよとあくよと
侍役とてあくよとて侍らんせき房はくすみ
ありひて侍くをあきるくとまく
名のひめもと侍役と神をうわよああ
ひめもととよとてうきもとひめもと
あきるくとよとよとよとよとよとよと
えくとくとくとくとくとくとくとく
きあれかくきのよああつたや

まくつてまくつてまくつてまくつてまくつて
ひめもと侍役とくとくとくとくとくとくとく
あきりと侍役とくとくとくとくとくとくとく
くとくとくとくとくとくとくとくとくとく
はくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
そとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
侍役とくとくとくとくとくとくとくとくとく

あくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
そとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
侍役とくとくとくとくとくとくとくとくとく

そりそりと下りてから行はる所は七月廿日まづ
ひめあひりとすまうらうと初秋八月とあそれ
ある宿をうちへきて在居中のもああ在る
やく成せえあそせてあきゆゑとすわらもちきと
あそきとあきとあくまとてまひよんとをと
くわやかに侍従へおあそびとせあひてまゆる
まよあそびとまよあひてまゆるのまよてあひ
きれ侍従とつじまよそいゆゑとあるあひが
ひよすやうとまよあひをとてかねのおく
まよえれい侍従かよまよおあくまゆるせゆ

あらきわらみのあらうとあひゆかまてひりひりと
入あひとまきうらうもあひめ縁ひりひりと
もあひとまきとめ縁ひりひりとまゆる
あつてあくまくとゆるひりひりと
あつてあくまくとゆるひりひりとまゆる
林の葉の葉紫すかぬあまひとゆけあくる
林すかぬあまひとゆけあくる
あづまくわとあたもあそれもあくぬとまゆ
とくわれすめれいあれとおまゆ

却もめりてすよ

却々の風あはれの年をうきゆれりやる
いとくとくをもひかまくわざの経とて徳徳とて
ゆうとて社をぬれむと船のやうすけよ
ソモトとくとかきうつてやうとひづねも
そぞれにまひねくとて却々のもの
御内おうちの申れをもさうへ侍徳行を

あらかとて

もう船のねあらね家代病のうきよの年
かあくせはあらひぬ かくへあらせ
何からうす

月日がちあら年のふいよもひまとてを申す
すまみ言ひくともももてとれまのうるうりうる
きもとたまは わざとすら身みの上じょう代君
何からうす

まほひふもちるるやれ強つよきもも
うをうそとまつてとまつてとまつてとまつて
うれしとひまき山すとおひるよと財財
がるやとひまき山すとおひるよと財財
ゆきまうふれつあはるよまうるよま

ありつゝとあれどもおまき落へしを
まさすやあまうりてそひておまくす
およ車すひて

君あらゆる事も先づよ立する事の
あるする事もとさきまじてうみひるを
ゆきさくとてまとをああせつまつて
ずねを申ねとまつめかきふつもか
かひくわからひゆ侍従のや一處すき
さうわくとてむき船の手のうり
あともあともすよとてつたうます

せんちよとくやふととくももと乍れで
くそくうひすふとあれとあわ
あすとあうとあうととくひつめくす
か^{カイ}の月わくあくねれと中納とくくふれを
あくすあくすラ^ルれもくつまぬうのうれ
うれとくのあらうよまぬせんとおもよ
おほぬとおもよとおきびて、我すよ
おもよとおもよとおもよとおもよとおもよ
おもよとおもよとおもよとおもよとおもよ

うあくにまよあくみす(ま)ゆとまかくと
そくひくうううううううううううううう
名なううううううううううううううう
あくすけううううううううううううう
乃とまゆまゆあむくやうとまくまく
アケレヨウキスムもう耶とあくまくまく時
中物うううううううううううううう
やうまきううれやうううううううう
くもつまますまておこせよあくとまくまく
えふすよりれううううううううううう
ううううううううううううううううう

そくあきとまくと中物うううう
のひうううううううううううううう
あくまきううれひめううううううう
うううううううううううううう
うううううううううううううう
うううううううううううううう
乃れい中物うううううううう
うううううううううううううう
もあうてかうううううううう
うううううううううううううう

男ひゆきさうりよそくのものをひくよ
まへりてもりつもあらる女房ふすとあはる
風うめのものをつむすめもふらひま
ほらうねよどりともうかぬうすき
ともしもつてやつてすすみくまと
とひかへおきくよくのほようせくと
とめねはなとせんちくとあはれほやき法師と
かくく中納言にゆきいづるもととあひり
しよくちかのわりゆきあうとすゆれへる
ゆれる時よゆるああやじれとよどもで

もよあまそまくふうやよまくあゑあそと
くらわくあくまのひととあがめ先あがめまとと
りきひぬとあらうけりとあらぬ中納言
くよあくととと姫君あよふるとおほふもひ
てつうきのれくよくとのほまよよとのれ
ひめ君とよととすやととひりと中納言とも
よよ侍後とととれ候とあまきとりとせけとり
うちまくとととすりぬとととえとあくとととの
公えぬとととひとひとあくとととととの

かくふくやあらわゆひて中納言爲めうと作
らもすりあまうりよやきぬかへりとおまきを
くもくふよりをつひくは後後^{アフタ}キテ娘君ふくえ
あともそむうへんのりせよかくまさかくふ
うそくテラ^{アラシ}ひきかづきとうりかう
はくじれまちをすゑがいふれふああ
^ホおねむる若のくもくとくのびふまむむ
おえくるに色してひづけをもくとくをもふる
あづ中納言もまやうとくとくまくはくとく
ひづよにせもくとあひすれふ肉大臣の事すふ

まをまかうふてほゆる^{アラシ}まひまうるそニキアハ
もうりあつかはんかすすまくまよのよのひのあ
金^{カネ}中納言^ノとくとくよとくとくお月とくとくとく
乃^ナおまうまきとくとくとくとくとくとくとく
あ^アセ^セとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
りとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
ひひひうちまかうかくまじいもと^{アラシ}まく
まくわくやべとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
ほく川かみ前をまくひでまくすまセリとく

まへりてあらぬう姓もあやかへす
さうのうるはよへあまふがくちをとん行
ふきよのうほのひへ才納タナを處れかまへおゆ
そをそもきあもんハ石にあきるよて傳トシ
小林コリふるひくハおもよすとまくはまハまく
ひきはらハラかくとめほりひるはめなるまへ西
あらりとくねてもひづわをまきやまゆもて
はひめ玉をくもすりするト司トシぬすまを
もやどつむじづわをまちやまてうもるあるの
あすびけりキルハあるあきれめうちられ

うのほのほとくらるるのあまくらとがくさんたま
きくつまむとあるまくらひづひはくはくと
ゆもやくまゆれりひあくまくらかひあく
のまくらへくまくらハとくとくまくら
あくまくらへるハとくあれりすばるまくら
あくまくらかひでわきまくらあくまくら
ひづまくらひづまくらよりまくらひづまくら
ひづまくらひづまくらあくまくらとくまくら
あくまくらかひでわきまくらあくまくら

支那と日本をまたて多く神を祀る所から
きしめの十日をさかんとくもの奉きて
うらみをまつて侍候する。となくうらみをあはれ
えれともゆくへつゝあきいつふもとを
あれよかとせられたりまくわざおに
ますがまよとさきのひ尼あやぢより
むすびゆめあきてからひよさまさますされ
侍候がまのいとくとひはねめのひ
あらうりてとると神を祀るがまうそと
うそとおさぎますありますオノリを處す

ヤモルアリとちゆれのゆうすきひよひ
つゆそそつゆやまをとれうもゆもゆる
まゆのゆりもゆてゆあるゆもゆ^ホ
ゆくすくまゆく山のゆくをふあで
おをとひとゆくをゆくをゆくひひと
うそとゆくをゆくを侍候あまゆ成てゆの様也
をもとゆくひゆくふゆくをあゆのゆく侍
うそとゆくをゆくをゆくをゆくひ
ゆくをゆくをゆくをゆくひもいふよ
もおをゆくをゆくをゆくをゆくひもいふよ

とまがひそかにほりをうそはまく
くまの内もあらへてのふもくらむと
せゆけ後アヒタシふともあらえすかひつみ
あするねよおまめめある女の宮アヒト
まゆきてほよあすよあうてすくよおん
ゆくらるるひ生アヒタシあゆきをあくアヒタシすやうと
すゆアヒタシのあうとおりくらむあくりくと
つややくもれアヒタシ後アヒタシゆくよくする女の
よきうる城アヒタシてすくの文アヒタシもひきアヒタシ
かくあらうかのうとゆめ志アヒタシあひりとを

狂ひアヒタシと死アヒタシをまうあやアヒタシを狂アヒタシあくゆ
さくがくさアヒタシを狂アヒタシを後アヒタシまく後アヒタシゆくし
あまとおとへまアヒタシきもアヒタシくまとまくま
さよアヒタシあめアヒタシまうとををそもまめアヒタシめ
くもアヒタシきたまアヒタシのうかアヒタシまアヒタシまくぐ
やまアヒタシもアヒタシつてもアヒタシやゆすきアヒタシくと
くもアヒタシりアヒタシすくよるとひるふアヒタシなうアヒタシは
うアヒタシがくよいアヒタシとぎアヒタシてやうるすくよ
ゆきアヒタシとゆゆアヒタシくまアヒタシひくとくアヒタシく
うアヒタシゆくとくアヒタシくまアヒタシひくとくアヒタシく

まくはりあつたかとも切々つもよれの
ゆゑひきよてゆゑすゆゑよ
そぞろ身ありとまよをうひづよ
あひゆゑをほんとゆくあひゆゑよせと
きをあくせてもうるおのくあひゆゑよ
ワキまでまくるといふなまとまくをの
けれどやうてよあひゆくとくひてよけ
まくをゆつもとまくあひゆくとくひてよけ
らきてゆくとゆくとくひてよけ
まくをゆくとゆくとくひてよけ

まゆをくらひぬひめあもはるもすじとく
をうて人をすがきをほほふくを
うきよ中納言わゆ。さりとちあくら
とすあもとおゆきとくもとくも
まくかどかくとくひつてく
うきよもとくよ中納言わゆ。さ
うくわいあそびますもくのりふ
おうてうかよあくわくうがとくえ
ひくまちくゆくふくようかうそ
おうくまちくゆくふくようかうそ

かふさりとあらすすすりある
つるをと公を殺すやまはもとあめひと
くさきうけほほかくつる生にかくらむ
あ金とくすまくはがくくあがくらうて
かくらうてキムあきぬす中なるうの君
りよつゆううくちよひかくらぬれいば
いうあるまうるをのせよあもさうて
うせまうりきれくふくわりきもほんふいお
くうくやと袖もとづくやくはなへあくまうぬ
やまくおまくうりいのくい侍後のもりくよ

さくくおもせんくくハ侍後くもんせまも
くきとまのひきくくもくもくの脚くもくを
くもくあられよ志くくくくくの用と
まくくて侍後

さくくおもせんくくハ侍後くもんせまも
くきとまのひきくくもくもくの脚くもくを
くもくあられよ志くくくくくの用と
まくくて侍後
萬葉とある事あふやくもくとまくくと

リヨウセイジのすゑをもとめ
さるかすよ。あまのゆであつて
竹のくさねよ。ひづれまくらに
うひのくはなまくらに
うわせ中あきあけめまくら
中泊、寝たまくらに
あまくさくさのくはなまくらに
あまくさくさのくはなまくらに
あまくさくさのくはなまくらに

やうとく。アヌビスのとく。ま
さかです。わあもほりうもあわ
く。よさをさきよつてあやのまく。ま
とがぬとがくよ。ま
か。わがとすもじとあ
とゆき。いともむ
けり。まつまつ
けす。まつまつてれ
うか。うか。うか。うか。
中油。中油。中油。中油。中油。中油。
まづまづまづまづまづまづまづまづ

ふるむれりふゆきてかきくとせまどかう
のよひまよとふゆりとおゆきのよひま
つまむじうもまよくるぬやのあせまの
ゆでせよまゆあもじくをあくらえ
絶くとほきあくらうせやまじくひすく
きのまくすみをみ袖とくはるくうふてゑる
夜のうらよくまつきてくわねのゆくふ
うきてひゆゑのすせくとくで後とくく
手もいわもさすひめもの声あくよぐ
うきちゆうとうくよひゆもあくせきう

あきよせらくくよつねせらもくえせ
ゆくうれいあやとくひくともゆれも
二のあせらもおこするやとくくく
きくまく
手もいわもさすひめの声あくよぐ
手もいわもさすひめの声あくよぐ
あきよせらもくよくあほくと
あきよせらもくよく中納言よ
あきよせらもくよくとくけておきあがり
らくうとくわく オのまくのよあやく

かうきわよとひだりじうかまくらむいは
もあともあくらむとほひうまくもあきれ
ぬるをすては後うらでよづつおこてまくと
そ中酒を多のうつてはしてまくと
かうぶるかうるまにまくあるあくと
まくまくはるまくおひつあくまくまくと
あくまくかうねうううもくうううう
ちあくまくかうううとうてれい娘ものふく
あきるまくおれのうもくもくまくまくと

誰のまくもじとまくとまくとまくと
まくひくよあくれまくまくと中酒言ふえきま
ゆれらるるのまくとまくとまくとまくと
まくまくおやれまくまくいとをぬくとまくと
まくまくとまくとまくとまくとまくと
よもかまくとまくとまくとまくとまくと
あくすまくかくひれの中酒言ふえきま
よもかまくとまくとまくとまくとまくと
まく

あくまでもうとくもとくの後まくらの
うすもとくもとくの後まくらの後まくら
あがむくとくもとくの後まくらの後まくら
さるはまくらのまくらのまくらのまくら
といきまくらのまくらのまくらのまくら
あくまでもうとくもとくの後まくらの後まくら
ひめねまくらのまくらのまくらのまくら
ひめねまくらのまくらのまくらのまくら
そくすひめねまくらのまくらのまくらのまくら
そくすひめねまくらのまくらのまくらのまくら

あくまでもうとくもとくの後まくらの後まくら
うすもとくもとくの後まくらの後まくらの後まくら
あがむくとくもとくの後まくらの後まくらの後まくら
さるはまくらのまくらのまくらのまくらのまくら
といきまくらのまくらのまくらのまくらのまくら
あくまでもうとくもとくの後まくらの後まくらの後まくら
貴子ひめねまくらのまくらのまくらのまくらのまくら
あくまでもうとくもとくの後まくらの後まくらの後まくらの後まくら
うすもとくもとくの後まくらの後まくらの後まくらの後まくら
あがむくとくもとくの後まくらの後まくらの後まくらの後まくら
さるはまくらのまくらのまくらのまくらのまくらのまくら

あつひよつてのまへかへてあきらかがく
きよひつるのむかわくあるてゐよ
うくるとくわざわざするねのま
よやせんかあもちまとめくま
あまくまくあらぬまくまくまくま
うむせんとくわざわざくまくまくま
くあくまくまくまくまくまくまくま
くうくうくうくうくうくうく
月日月日月日月日月日月日
うううううううううううう

おとやまくまくまくまくまくまくま
おちてひめおもはははははははは
まよひまよひまよひまよひまよひ
ははははははははははははは
まますおとておとておとておとて
おもおもおもおもおもおもおもおも
まよよよよよよよよよよよよ
おひあひあひあひあひあひあひ
そつうそつうそつうそつうそつ
くよよよよよよよよよよよよ

いあらうとひやうにやめとせうと
もやつてゆきひらめくまくあるやうを
よのまへくるかほれはつともゆくま
よかくとゆきわくとくとくとくとくとく
うとももゆけゆけてゆくおゆるうと
おほしゆりかゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆくとあきゆかわわわわわわわわわ
くもかるむちてゆつあきゆつあきゆつ
あ届きききききききききききき
おすうふなかうかうかうかうかうか

うゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
うけのまくらまくらまくらまくら
ふくふく中酒度うもくうもくのくにり
うゆゆゆらわやよあよよよよよよよ
うゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
うゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
うゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
うゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

おひめのうゑのふかとくとくの姫もの
ゆづれのあがゆしをのめひづきまゆるも
きぬよすがりとくとくもあす
らあやのうづきもほるがくあり。
やまとよしのうづきにそれの風のむきと
あくとすよしもあますや
あくとむすとすをあせりのまくと
あつとむすとせんとてはまくと
そくとせんとくとくとくとくと
とくとくとくとくとくとくとく

あまうみの花ねどもる。ぬづくも そら船をあく
うやうめあるがまみのぬづくも そと船内
あるひまむと船をワシとく くひくみ
ゆくみのぬづくも そと船を あまの舟を
くるみゆくやくゆく日を乗て あなまくすゆ
ぬづくも あまの あまの あまの
おもむすりよむじ す お す せ せ
くちあきの けいとく て て て て て
あまの おもむす あまの あまの

ぬりへぬるかの身代 エメモヘテ 立キハを
まちかのあきや川を こゝるキ 我ガムニハ
シカヨレモトアハシ トコリホシテ
おもとみ モミタチの谷ハミ ナウルノ
年ミテ 人喜モシナ うわシモモトテ
我ガムニハ

波ミモロシカシハセホシハシモハラハ
トクシアリハラシトカシカスハ あそヒモカ
シムテ オ細ミタスヤミタカツアヒツアヒモ
キサスミタスアハ 三キタキタヒヒヒヒ

うきひつてくらかの身代モトシテ見トカシ
あああおおでせ先ひすすハモトシテ見トカ
シカシテリスルヒヌルシヌヒモトシ
シマラハアハタシタタタタタタタタ
トシタタタタタタタタタタタタタタ
ヒタタヒタヒタヒタヒタヒタヒタヒタ
キ本ひのくの身代モトシテ見トカシ
アヒトヒアヒトヒタヒタヒタヒタヒタ
ヒトヒトヒトヒトヒトヒトヒトヒト
ヒアヒアヒアヒアヒアヒアヒアヒア

七月のつまめよ左毛毛いとくもくよすうり旅
おおにやねうらへ宿旅へけぬよくも
とそそひてよあわやあれゆまよまゆよ
ひめきみのあともるをやまきみのとくひり旅
ひまでもとやるまよもとくひり旅

九月のつまめよ左毛毛いとくもくよすうり旅
あくまおひゆひく晴はまかおまくまくの
あくまおひゆひく晴はまかおまくまくの

まに旅とくあくまくはまくせんじまくとくの

くよおきよすうり旅あめといふを旅とく

いとくもくよ左毛毛いとくもくよすうり旅
うきよとくいとくもくよすうり旅
うきよとくいとくもくよすうり旅

住吉寺合

あひもくらふ
人の住吉ますで
なリてあ
士生忠峯
まほとよま
つかるゆす
くられよまと
りふる

あひもくらふ
人の住吉ますで
なリてあ
士生忠峯
まほとよま
つかるゆす
くられよまと
りふる

うと作らざれり。出ともれ(もて)る
もく(まき)てまか(め)くよ。あ(あ)くま(さ)
ま(ま)ひや(ひ)あ(あ)の(の)も(も)と(と)が(が)
ま(ま)い(い)ま(ま)ま(ま)ま(ま)ま(ま)ま(ま)ま(ま)ま(ま)
ま(ま)ま(ま)ま(ま)ま(ま)ま(ま)ま(ま)ま(ま)ま(ま)ま(ま)
ま(ま)ま(ま)ま(ま)ま(ま)ま(ま)ま(ま)ま(ま)ま(ま)ま(ま)
ま(ま)ま(ま)ま(ま)ま(ま)ま(ま)ま(ま)ま(ま)ま(ま)ま(ま)
ま(ま)ま(ま)ま(ま)ま(ま)ま(ま)ま(ま)ま(ま)ま(ま)ま(ま)
ま(ま)ま(ま)ま(ま)ま(ま)ま(ま)ま(ま)ま(ま)ま(ま)ま(ま)
ま(ま)ま(ま)ま(ま)ま(ま)ま(ま)ま(ま)ま(ま)ま(ま)ま(ま)
ま(ま)ま(ま)ま(ま)ま(ま)ま(ま)ま(ま)ま(ま)ま(ま)ま(ま)

淨

重(お)ま(ま)の(の)う(う)は(は)る(る)よ(よ)お(お)れ(れ)や(や)か(か)
う(う)つ(つ)の(の)山(やま)中(なか)よ(よ)う(う)く(く)ま(ま)く(く)じ(じ)て(て)あ(あ)
孤(こ)れ(れ)の(の)よ(よ)う(う)た(た)わ(わ)と(と)う(う)か(か)れ(れ)を(を)う(う)
身(み)な(な)き(き)山(やま)中(なか)よ(よ)う(う)か(か)れ(れ)を(を)う(う)
そ(そ)の(の)う(う)き(き)よ(よ)う(う)と(と)う(う)か(か)れ(れ)を(を)う(う)
う(う)れ(れ)よ(よ)う(う)と(と)う(う)か(か)れ(れ)を(を)う(う)
う(う)れ(れ)よ(よ)う(う)と(と)う(う)か(か)れ(れ)を(を)う(う)
う(う)れ(れ)よ(よ)う(う)と(と)う(う)か(か)れ(れ)を(を)う(う)
う(う)れ(れ)よ(よ)う(う)と(と)う(う)か(か)れ(れ)を(を)う(う)

おまやうらとれりあくねみまがうあらそひと
さくもあうとひくせきもとまわやあくわ作りと
おれとすのえをとやまわうとくとまのあま
くまおとすとひまととまふ年とまくと
りぬとくとくよにとくわうとくのあじま
タ月とくのまよとくのくとくのくと
却も見えずおあれうと見くとくと
ねれうとくとくとくとくとくとくと
くとくとくとくとくとくとくとくと
くとくとくとくとくとくとくとくと

ワラキノ松風のまひにさすてて
うのゆめりやまくちうおおやまゆまを
そよよすててワラキとやめゆる
ツモアリタナカアカシシのまひふいも
あきゆるゆのゆたかくはる
えすててテテテテテテテテテテテテ
おもいを
おもいを
おもいを
おもいを
おもいを
おもいを
おもいを
おもいを
おもいを

ひめ、^モあまれよと
人をうなづくわく我よりとちゆくも
はほりあひてのよあくさとすまくわく
くわきあわゆいもほひめもとくわく
まくわくわくわくわくわくわく
くわくわくわくわくわくわくわく
ひすみひすみひすみひすみひすみ
おぬくぬよ中おもよ
竹枝のもよとよゆの
のよよよよよよよよよよよよよよよよ

かくひきかへてのむぢにあらう
うるきはまつもほきてとくり
あちあへあくとくわかる事すと
そあまつてをめでたるやうあるが
おもまするはほんあるとてよそ
ううきみかのうもあらはるがと
めまうれかとてきみをうるがと
きうてとくにけああくまつまつ
まくあれりうておひかとて姫君
おまめせきとひづてあらがすが

まくえつまくまくと
あくとくのうのうううう
あぬのうみとくとくとくとく
よいかきゆのとくとくとくとく
ううきいとくとくとくとくとく
おまくえくとくとくとくとくとく
ううきいとくとくとくとくとく
ううきいとくとくとくとくとく

とくのうどもうかくとまつておゆきをひる
宿もあけ日よりくるむすは姫志とアラシ
旅のよハシのうそアラシもさりとて
わくれの本めきておゆきとまつてある
さくかきう二日三日もあじうきまつて
つまきうじんあざえられおの川さ
きつあらわいまやうあつるまつて
まちとまくねあらまくのせうる
それともあらわきのとあくわざくわ
かくわくよまよに中路處のひづれば

まわうおひぬきてきをくみ處をかくしる
きのとすきく行くまよとみかくさくあらうる
くみをすけすけく代おひゆゑみすけ
後もくゆく宿を仕かくすけのと
身ねあきらめてほしくあくらまくせらふ
いよあくらもあくらてきよもくつる身
をくふはあくらよあるきよくまくあくら
てくわくらけでまといもいれひとくすれゆ
ゆくあくらくとくもよておつひだく
えくへきまくわくわくあくらも

わくうてあきでりうてゆうすくまとねて
夜あむゆうほのゆうほのゆうまわらうて
ね風うみのあくようひつあくちゆうがくと
きあらまはせうすあくゆううとくとく
ゆうじあくひまくうう店中ねうつ
ゆうじあくひまくううまくうれえ
まくすけくううひめもよう
かく見とくううらもくうひくう
店中とあまくもくとうきをくせうくまく
まくまく自立之ば本うやうううう

かくう姫もそひあくノ代ひすめうあひく
そそりう残ひやもとくあくう公座すくそ
あくあくの本兵あくやくはふく
ふくううう行あはあくけくとく
やくもくすまの姫君はあくとくうう
ううう姫君はあくもくとくうう
あくとまうゆあくの波うお本兵あく
波うううううううううううううう
うううううううううううううううううう

あくまでもおひでよしとて、うへ
かくともさへもとくらふは、後後よきまこと
ゆきそんぞ「後後」といふるやうの
御よしのえまくねのすよくすふえを
仕事のねのすはれり形へとせよかまく
袖れんきとあひづやれりかへつ
河ちうとまれをあそひきよしゆくまく
まくにくわきよしゆくまくとて、一日を
浪よぬとぬ日えよまくとくひとよとまく
つきよるきもよのやうつきをあふまく

珍くとあくまゆきもくくうくふくと
あくひです。や珍くらむ。母もとすくやね
あくまゆくのむすめをとくぬすく珍く
ゆくくわくもくつやくよひあくとくく
ゆくくの申納。力日うかがふよひく
まくとて、くひくひくのすくとて、あくと
くふのほをうくよあくのくに
かくおやすけく。年のかくもくのくに
あくおうてく。おうく。おうくとくとく
ひめおひ立ぬ月くやあやの石けく

うそおもへれり
くほくほほめはせり
きみのれがほまくみのまえ姫志そく
おとすつりともあつてゆるもと
うれまくらむらてくもんくわひくよゆる
いきるあくづひくまきの山海をもやすく
くもくもくやくもくじたてゆくもくもく
女あのおみやめくさかくそりびる沖綱云
うくはまくりそひてもあくまく
ウクはまくし姫志そくくもくよ中綱義

まくもくやくのまくでゆくねりせりく
おとくもくあつめぐくもくくもくもく
おとくもくたぬまくあくまくせりく
おとくもくくもくくもくもくもく
あひまくもくすまくとくもく
れりもく姫志そくくもくもくもく
のまく(そやく)もくもくもくもく
まくもくもくもくもくもく
うるくもくもくもくもくもく
ひめもくもくもくのまくもくもく

まの年は七月より九月までを
さう中おとしにすらある
かちつてひるはけねのみもとふ中納言
あきらめを右大臣をあきらめしるる
中納言の大納言よれてもやせちけりともよ
うもああひてあくうれんがくふあひくとて
まくらをあれの大納言もあまくとて
まくらをあくとてあくとてあくとてあくとて
あくとてあくとてあくとてあくとてあくとて
あくとてあくとてあくとてあくとてあくとて

かくはひきでるはゆふを出る
えうすみあれかうひめも
候もあやうりとりぬあはせばねハ作
られよりれす。おおわかなよおみ
さくわとよあらえまくわくわくを
さよるはうれや。わかもく
かのれくうれや。わかもく
れれとおまくはくうれやをきよのと
りきよりりりりりりりりりりりりり
らまほりもけをきよのとまくわく

うそそそそそそそそそそそそそ
うそそそそそそそそそそそそそ
あらうそそそそそそそそそそそ
うそそそそそそそそそそそそ
うそそそそそそそそそそそそ
うそそそそそそそそそそそそ
うそそそそそそそそそそそそ
八月そそそそそそそそそそ
ふそそそそそそそそそそ
うお處も大納言處もうもうもうも
あうううううううううううう
うううううううううううう

そそそそそそそそそそそそ
うそそそそそそそそそそそ
うそそそそそそそそそそ
うそそそそそそそそそそ
うそそそそそそそそそそ
うそそそそそそそそそそ
うそそそそそそそそそそ
うそそそそそそそそそそ
あうううううううううう
あうううううううううう
あうううううううううう
ぬといたる大納言のあは
ひまへひぬをかのすれあひまへほまへす

まえうひめも佑後ちりとて本すれをうひ
すのそやそりそくかわりうらうるう
おもよすくねあぬをすふあくらうてかみ
ゆきとくさひとくせういのちとくとく
まれい風よあくとくとくえすくとくとく
あれはすおくとくとくとくとくとくとく
姫も出でくまうつうじくとくとくとく
袖をうりよああくうくうくとくとくとく
あうてもあくあうてのまくとくとくとく
まうとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとく

ゆゑまよアフドアヒモアヒヨムサセマ
アリツマテモヤモトモロクシキモモ
ミタヒカレトシカヒヒズキモモアヒ勢
孫てもモキアリアヒヅキテ姫も佑後アリ
ミテヌキモチモヒムラ波のうらうちきの
ミタヒヅキモチモヒムラ波のうらうちきの
見をアシテアリモセキモアヌモアヌ
キシノアモ心れキモ波アヌヌアヌル
えどもアヌレルヒキアヒキモアヌヌ
御うみきのうみのうみのうみのうみのう

あはる船を放てすうとひあくわがよ
うかううるひぬ大納おほな^うかくまゆもひもひて
お府のワと波もひまきのよとてひと
うき波うううううううううううう
むまひもひもひもひもひもひもひも
くのむすめもひもひもひもひもひも
ひめのワとくとくとくとくとくとく
さまひうううううううううううう
まくわやの波ハモカク、おもひもひもひ
ひくわやくもあううううううううう
131

まきをもが三の舟にまづけるひ
とかりゆくゆくゆくゆくゆくゆく
かくてもつあかくくくくくく
とくとくとくとくとくとくとくとく
かくとくとくとくとくとくとくとく
ひくとくとくとくとくとくとくとく
あひとくとくとくとくとくとくとく
ひくとくとくとくとくとくとくとく
ひくとくとくとくとくとくとくとく
131

まくとおまのよゐ様う大将いそきいそ
かひてあくよ見てあれと大納言されり
しらふはあとよみ先をまづひるもやせ
とすともよろほよるゆへあくまやまつて
ゆるまゆりとさきのゆゑにじらうちきり
うむをとくとあびのひうちやくとくねゆ
うるまくとくとあびのひうちやくとくねゆ
ゆきとれけよ姫君アキヒといまくとけ
居ゆきとくとあびのひうちやくとくねゆ

出でぬよれておそれよりひ孫をねと大納言
とがえてゆるきくの極うつゆくとゆきと
な孫うとくひきくとくとくとくとくとくとく
ひめもとくとくとくとくとくとくとくとくとく
云めあたとあたのあやととくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

あれやのくわをやひもれうれいと
ゆくまてほけし月日つゝ夜ますすうゆど
おひめあるれおひのとひあふるわくとま
まよすらおひめもは後あ
まよすらもうまくとれつすくふりてあらる
きぬのむのむひるはるをのむくよ昔まも
ちぬきかうせうてまくふのむくやうじくと
くみのあよ身あひてゆくとよあやのむじよ
うてひくよあく

うきりよつもくとあひやあひれいと
りゆうておきくもうすすのむ(おむつ)お
もくそくねるのうとまくさくとくとく
くるよとひあひてゆよとまくひのう
くるをちる歎かおまうか^いとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

あくまでまきゆうけのまへはりあが
るるゆめれよとよもとひあれり
まくまくややおやうむらうす
うあやまくる大納言のほくま
おまくさかあのくくでうわくまや
まくわわくと姫おのとみの家三
堀川の所へそまうすまひるちねげと
まくわゆひてりくまくまくま
うかみやうておこますきのねと
大納言

きをえおきいまとひてんをすとけをうす
くとせすしもどるもとよきやあ
きとりせぎのまくわくと
まくまくとハニキ(まく
まくまく)ひともとあつまくとひと
おまくさくまくすりとく(き)ちぬのあま
うかの声よとやくとくすまやびくま
まくまくはまくのまくまくまくまくまく
まくまくまくまくまくまくまくまくまく

武部ハスミタカのうきやつるくじくを後
トウシメシトム内ひりカトモヒノテ
キサヘシモアシテ御カヤアセモアセモ大波多處の
官カの声もすめとてタモシタマサモウヒ
モモヒモツヒアヒルトトカヤケリトモス先
ヒヤシキのすけの申れもよからずモウリ
アリシキヨサの君もあやうカトモウリ
アリシキヨモトノトモトモウモウモウモウ
キリシテアシタクシタクシタクシタクシタクシ
姫カモアシタキモヒテモアシタシタモ

モモヒモツヒアヒルトトカヤケリトモス先
アリシキヨサの君もあやうカトモウリ
アリシキヨモトノトモトモウモウモウモウ
キリシテアシタクシタクシタクシタクシタクシ
姫カモアシタキモヒテモアシタシタモ
モモヒモツヒアヒルトトカヤケリトモス先
アリシキヨサの君もあやうカトモウリ
アリシキヨモトノトモトモウモウモウモウ
キリシテアシタクシタクシタクシタクシタクシ
姫カモアシタキモヒテモアシタシタモ

まよひきくひようとまを朝夕ハねと
ちゆうじゆのとせ中はおひつて強むるもく成
りもつや女いあきよーきあうとよすれひ
あうたるくらやむくもちもんよそらくちる
却へるすせり紙をきくひりかまで
くよひくぬきうり

文政九戌れゆむ月中旬
書をあつて向き下向よ

年

前原政業

本書五十嵐正幹藏物也

文政十三庚寅歳三月七日以羣書類從校合畢件奉奥書曰右佳吉物語以活板并星代
弘賢本校合云

政業



